

## 19 マクロファージ由来蛋白質 AIM による肝がん治療法の開発

新井 郷子

AIM (apoptosis inhibitor of macrophage) は、肝臓のクッパー細胞等の組織マクロファージが特異的に産生する分泌型タンパク質であるが、最近、AIM は肝細胞がん (Hepatocellular carcinoma: HCC) の細胞表面に蓄積し、それが補体系の活性化を促すことでがん細胞に特異的に細胞死を誘導し、がん細胞の速やかな除去に貢献していることが明らかになった。本課題では、この AIM のもつ「がん細胞除去機構」を用いて新しいがん治療法を確立することを目標とし、AIM をより効率的に HCC へ集積させる方法について検討を行った。その結果、本研究において新たに、HCC には IgG が抗原認識を介さずに集積していることを発見し、この現象を利用した AIM の効率的な HCC への集積系構築を考案するに至った。今後はこの系を利用し、AIM による HCC 治療や予防法について模索していく予定である。

## AIM によるがん細胞特異的な細胞死誘導

